

# たいごろう



昭和33年8月

たいごろうとは、昭和33年ごろに子供たちが遊び場として使われていた場所のことである。昔のたいごろうは、河原にごつごつとした大きな岩が多くあり、遊ぶのには少し危険のように感じた。



生い茂っている木々が、濃緑で、広大なので、力強さが伝わってくる。



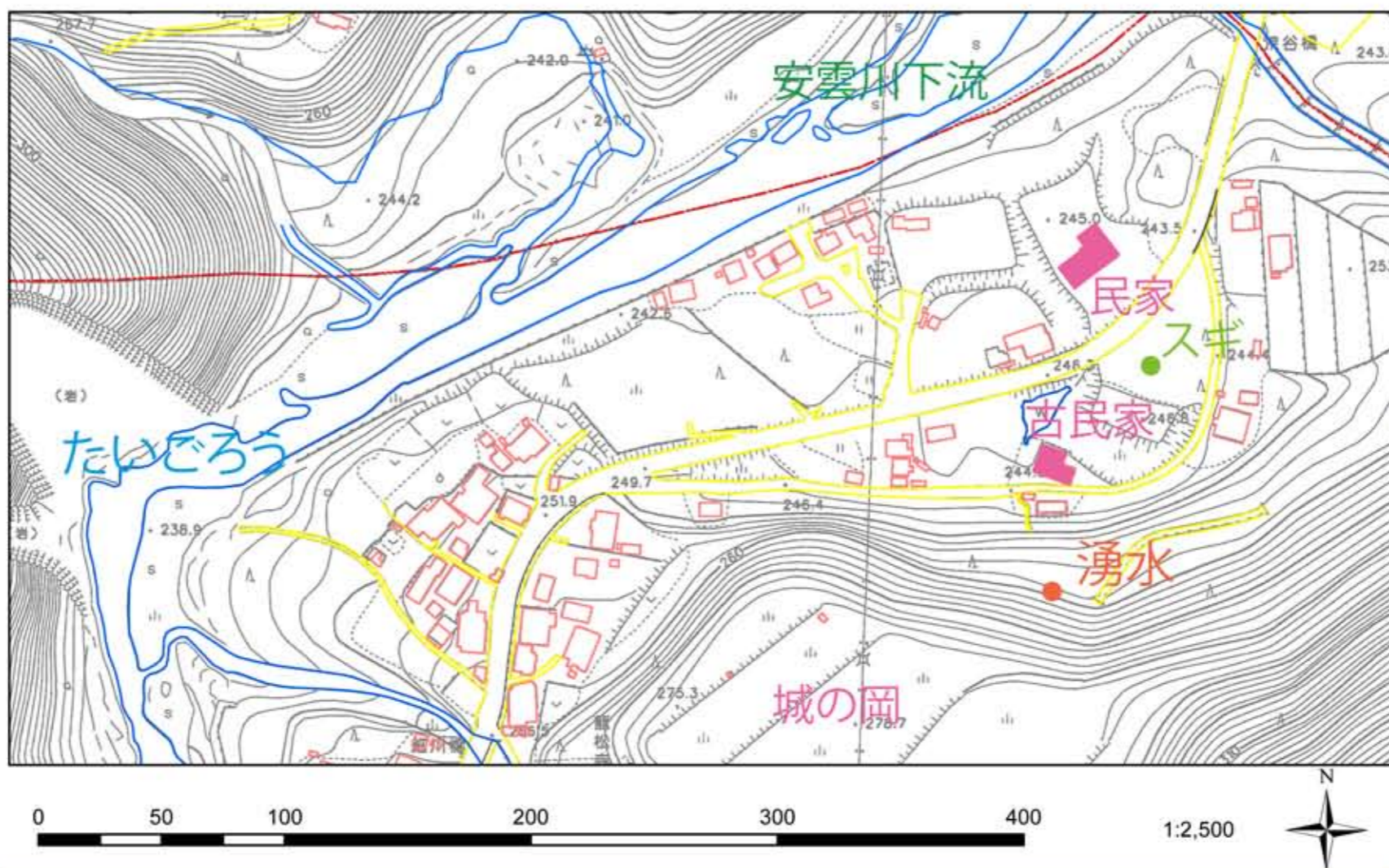
ため池は生物膜が作り出したうす茶色から透明な緑のグラデーションが印象的で、身も心も癒される。



たいごろうに流入水源があった。水量は小さいが、水が石にあたっていたので、この付近は、大きな音がした。それが、たいごろうの無音な景観を少しにぎやかにさせている。

# 森の癒しと壮観な安曇川の村、細川

2230110041-1 筒井 祐貴



# 安曇川下流



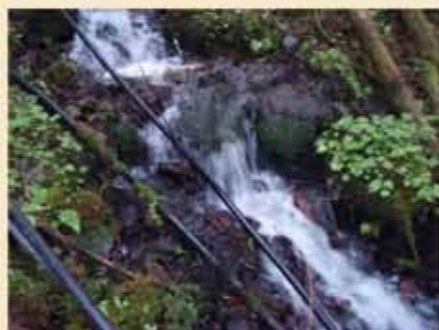
安曇川下流はたいごろうよりも岩が大きいので遊び場としては適していないところであるが、岩に衝突した際の川の音や、多量の水が流れる音の壮大さが印象的である。ここでは、植物プランクトンがいる証拠である生物膜が岩に多く付着しており、生物が住める川であるといえる。

# スギ



古民家と安曇川下流の中間地点にある民家近くの道には、湧水地点に見られたようなスギが生えていた。スギは人に癒し効果をもたらすと考えられており、散歩の途中の休憩地点として利用できる。

# 湧水



この湧水は古民家から30mほど登ったところに位置している。水温が9.6℃と冷たく、住民ののどを潤してくれる。



周りは、高さが10mはあるスギは多く生い茂っており、あたり森独特の香りが広がっていた。暑い日でも涼しく、快適な環境であると感じた。



この森にわらびや樹皮が落ちていた。わらびは山菜の仲間である。また、多量の散乱した樹皮はスギの保温効果をもたらすので、スギが快適な温度で生息できる。

# 今の細川が危ない!?

・昔はシカやサルが見られなかったが、それが細川で見られるようになった。シカやサルは農作物、ごみを荒らしたりするので、それらがこの地域で見られるのはよくない。  
・以前は、安曇川には日本のオオサンショウウオしか見られなかったが、今は、中国のオオサンショウウオとの交配で、雑種が多く見られるようになった。